

# 吟道月報

NO.37  
50.8.5

## 碩心会

吟道をよみなし(八)

### 会員数について思うこと

会長 三井 雲 岳

過ぐる碩心会の生い立ちにも述べましたが、今碩心会は、四く五名の会員から立ち上り、十八年間にこの八月一日で十六支部二十六教場、三百四十二名と言ふ県下でも有数、若日本でも数少ない大きな単一詩吟団体と成長しました。皆林林々々御同慶の至りと存じます。根岸先生がよく今年中には三百五十名にしたいね、と言われていましたが、尙遠いなく暮には達成出来ることでしょう。過ぐる諏訪支部に続き、堀内支部三班、又此の度は銀詠支部日班を開設、更に更りつつある一、二の他の教場もあります。

これだけの会になり、しかもこのうわさすら

の働きかけが最大の功績であつたと言えます。

約二時間の練及時間でこなせる会員数は十五名前後がぎりぎり、現状二十六教場が充実すれば三百九十名までには持つて行けそうです。

又、考うべきことは地域的に四く五名の希望者があつたり、その近くに教場を作り、これを地盤として一年頑張れば、すぐ十名位にはなると思います。

六段以上の方々も一志努力すれば、準師範の資格をとることが出来ます。正しい意味での吟の発展のため又自己の吟の修練のためにも、大いに古い方々に頑張っていただき度いと思ひます。

尚、それについて考えられることは、教場会場の確保の問題です。今道業地区では教場にする会場難が誠に甚しく、将来の発展のためにも近所に適當

流れず、日に月に力強い発展を遂

げたのは、何と言つても会員一人

一人の吟に対する心掛けと吟友の

な場所があつたり経営維持が最初はつらくても、確保すべきと思ひます、今の沼田故郷を回く五名の会員で確保し、自腹を切りながらの努力が、今日沼田支部がいくら増しても著付いておられるいい例です

世情混沌たる中に吟の發展は、着々その地歩を固め隆盛に向つています。昔から詩書画三絶と稱せられて、文人墨客の愛好するところです。

詩中に画あり、画中に詩ありとも言われています。独り詩のみは朗詠が尊ばれます。作者の精神を、妥致と正し、正しい声調に詠えて、心をこめて詠するところが情趣豊かな人々の美感を動かす日本古来の高尚の道が開けます。一人一人が正しい吟の道を歩み心の友を作り、吟の友として長く語り合いたいものだ、この頂つくづく思う次第です。

## 総本部関係

ヤ二十一回吟道夏季大学講座には、碩心会より受講申込者八名ありましたが、申込み時既に各講座共定員満員で、残念なり御希望に添うことが出来ず、来年は早目に申込みこととして、おわびを兼ね、報告いたします。

## 県本部関係

八月八日 金沢区町屋会館に於て、理事会開催、根岸先生、会長、沼田光風、千葉剣風出席。

## 碩心会本部関係

◎ 沼習会、審査会にいつも使用している返子布と図書館ホールが、永年の懸案であつた冷暖房装置が入ることになり、七月からその工事に入り、十

月一パイを完成します。そのため工事期間中の使用が出来なくなりました。十月五日に予定していた秋季審査会は、従って同日・桜山会館と同じ境内にある六代御前神社々務所のニヶ所を使用して、不便なからやることにしました。

詳細は九月号で、課題珍と女にお知らせします。

②、逗子市文化祭も右工事のために十一月二十三日（日）に完成後の図書館ホールを使用して開催することにして準備をすすめています。

## 会員の異動

### 新会員

戸塚支部	加賀山 右 戸塚区新橋町一、〇三一
	電〇四五―ハ―一―三九〇―
戸塚支部	菊地 定雄 戸塚区汲沢町三、一六一
	電〇四五―ハ―一―三七三〇
吟舞支部	鈴木 淳志 横須賀市坂本町二ノ三二
	電〇四六―ハ―二五―四六五二

### 初級籍会員

大船A 後藤幸子 大船Bへ

### 新教場開設（昼間練成）

#### 銀座吟詠会B班

守永寿美子	逗子5の2の50	電71―二五四六
菊池トキ子	逗子5の2の52	電71―四三二一
沢木たつ子	逗子1の10の10	電71―二六九二
秋山なみ子	逗子1の10の10	電71―二六九二
米倉 妙子	桜山2の3の34	電71―七三三六

教場 守永寿美子さん宅

理事 守永寿美子

指導者 千葉香風

### 退会々員

113	堀内支部D班	関沢貞吉（澤泉）
202		須藤 徹（交泉）
232		渡橋 実（実泉）
"		沼田安治